

～「街に出る」盛岡市動物公園を目指して～

平成27年地域政策研究センター(地域提案型・前期) 採択課題

課題名：動物公園から発信する市民や地域との協働による都市形成と市民活力の向上
研究代表者：総合政策学部 教授 倉原宗孝
課題提案者：盛岡市動物公園公社 園長 辻本恒徳／盛岡市公園みどり課 主査 長澤幸多
研究メンバー：川村弘樹(盛岡市動物公園公社) 藤根卓夫(盛岡市公園みどり課)
技術キーワード：動物園 市民活力 盛岡 協働

▼研究の概要(背景・目標)

盛岡市動物公園は平成元年開園から多くの市民県民はじめ県内外の観光客から親しまれてきた。一方で、市の厳しい財政状況のなか、動物公園の運営費などの財政的負担が問題となっている。本年度は、前年度に取り組んだ研究活動の成果をさらに発展させ、動物公園のハード・ソフトの検討と共に、「街に出る動物園」を一つのテーマに市民・関係者各主体と検討を重ねた。またその間、国の支援事業に採択されるなどの新しい動きも生まれてきた。これらの状況を睨みながら、魅力的な動物園の今後に向けた市民各主体との新たなアクションの検討を重ねた。

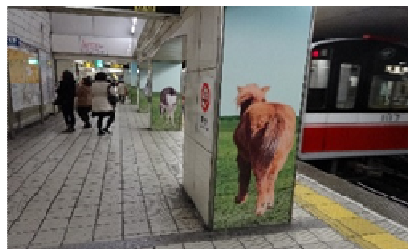
▼研究の内容(方法・経過)

一つは前年度に引き続き先進的な事例の情報収集を重ねた(特に商業ベースでもどん欲な活動・運営をしている点を注視した)。また、動物園の運営に向けて市民各主体が協働する体制作りを狙いつつ、「街に出る動物園」のテーマを実現するための検討を重ねた。なお、研究期間に国土交通省支援事業において盛岡動物公園の再生を目指した「盛岡市動物公園の官民連携による再活性化事業調査」が採択され、財政的に厳しい公園整備を検討する上で大きな糧となった。結果的にPPP・PFIなど官民連携の手法を模索する点で動物公園が一つの有効なモデルとなり得るため行政内部の各セクションとの連携を促進する作用も見られた。

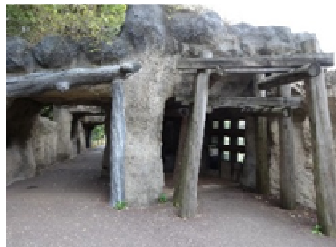
▼研究の成果

【全国先進事例の情報収集】

前年度に続き全国事例の視察・情報収集を進めた。これまでの研究から西日本に有効な対象が多いこと、また公共施設としてだけでなく今後の園運営においては娯楽提供の要素を積極的に取り込んでいく必要性などから情報を収集した。盛岡市とは都市規模が異なる面もあるが、各事例では、街中に存在し、その中で特に娯楽要素を取り込むことに力を入れており、来園者は楽しみながら生態に触れ、また園の経営にも効果を上げているようだ。



【天王寺動物園】動物園に向かうまでのアクセスも愉しく分かりやすい工夫が多い(左)。園周辺の高層ビルと動物のコントラストも面白い(右)。



【福岡市動物園】一般車道を跨ぐように園内が配置、傾斜地の利用と共に工夫がある。都市部立地を活かす設計が見られる(左)。入園者の通路もアスレチック風な設え(右)。

【市民・各主体が協働する検討作業】

前年度の市民を中心とした参加者層に加えて、行政、企業など新しい主体の参加議論が展開された。また各施設との連携体制も模索され始めた。その中で企業ノウハウも導入したより現実的な動物公園の運営検討が展開した。一方で市民はじめ動物愛好者達の自由な発想・考えも提示・共有された。こうした市民・各主体がそれぞれの立場から緩やかに協働し合う関係・場が醸成していることが動物公園運営と共に広く盛岡の今後のまちづくりを睨む上で力となる。



今年度は現状説明や展開方法の検討が主にセミナー方式で進められた。現状報告では、行政担当者のこれまでの苦勞も提示されると共に今後への期待が共有された。

また今年度のテーマの一つである「街に出る動物園」の実践に向けた議論も展開した。ここでは商店街関係者などが積極的に参加し、動物公園、商店街の各関係者をはじめより実践に向けた、盛岡らしいアイディア・意見交換がされた。



(商店街と動物園の検討会)これまで接点が多かったそれぞれだが実際に意見交換してみると非常に好意的で、ユニーク・建設的な意見・アイディアが繰り出された。

▼おわりに(まとめ・今後の展開)

研究期間後になるが、「街に出る動物園」のコンセプトとアイディアは、早速本年5月のゴールデンウィークに肴町商店街を舞台にして実施された。動物達の写真やゲートは子ども達はじめ商店街来客者にも好評だったようだ。また同様の企画は、他の商店街や施設・空間も活用して今後も夏期などにさらに充実して実施予定である。さらに各支援事業や企業・シンクタンクとの共同作業も今後が期待できる課題である。引き続き各調整も図り具体的な効果的な取り組みに向かっていく予定である。